

株式会社 エーワン精密

2019年6月期・第2四半期決算説明資料

## 2019年6月期・第2四半期決算説明資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ 自動旋盤用カム部門	3
④ コレットチャック部門	4
⑤ 切削工具部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① 自動旋盤用カム部門	10
② コレットチャック部門	11
③ 切削工具部門	12
(4) 添付資料	13

# 当社の事業展開

## 経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で  
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

## 事業内容

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

## 事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

## 他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

## 自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

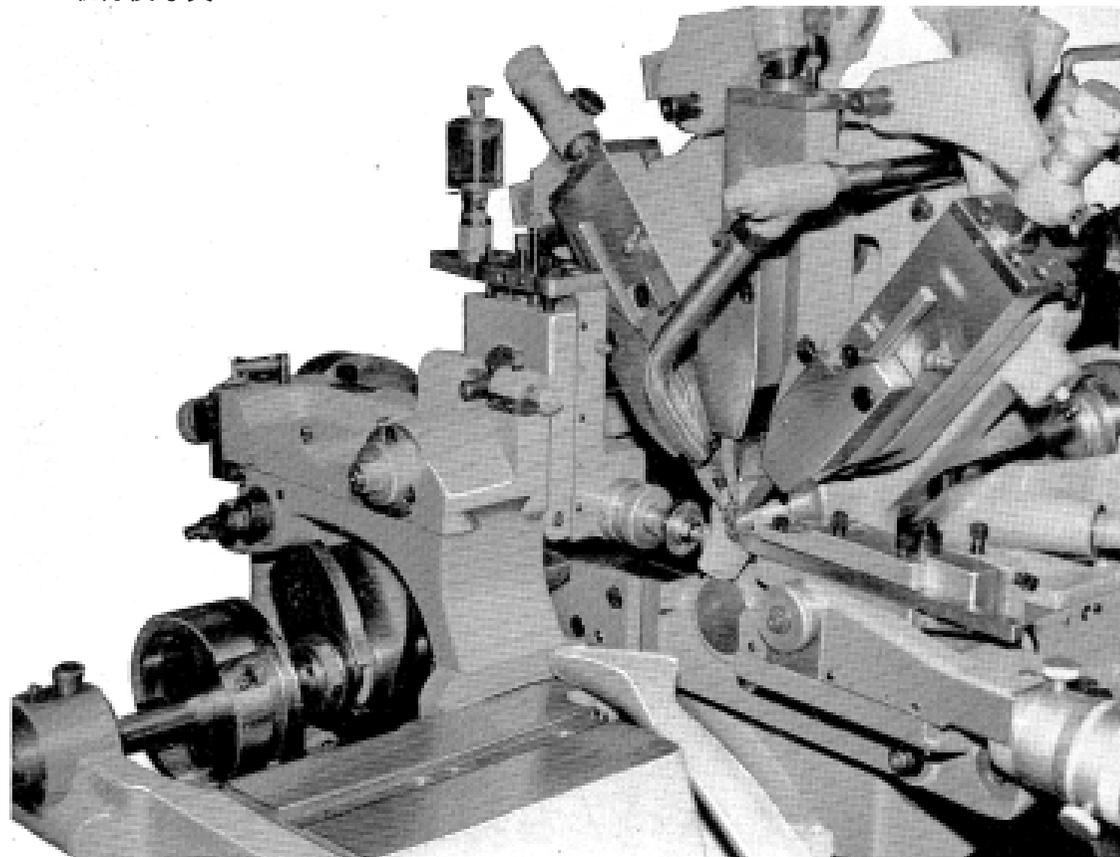
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS-P1053)



カム取付後写真



## コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

### コレットチャックが主に使われる機械

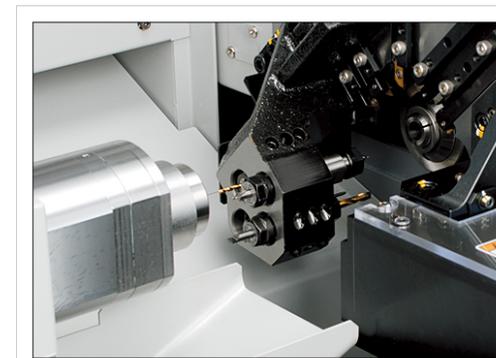
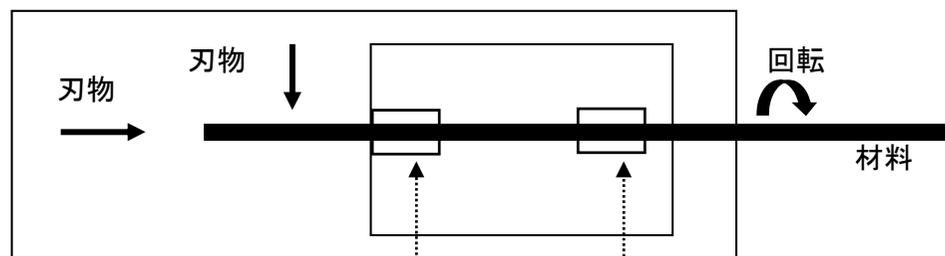
NC旋盤 3,302億円(2018年生産額) 21,074台  
うち 小型CNC自動旋盤約 1,696億円(2018年推定生産額)

主な小型CNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 920億円(2018年生産額) 3,667台



### 加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



## 切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



### 主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター 2,790億円(2018年生産額) 31,899台  
NCフライス、中ぐり盤 161億円(2018年生産額) 823台

使用される工具 超硬エンドミル 579億円(2018年生産額)  
超硬ドリル 411億円(2018年生産額)  
その他超硬工具 395億円(2018年生産額)

### 主なマシニングセンターメーカー

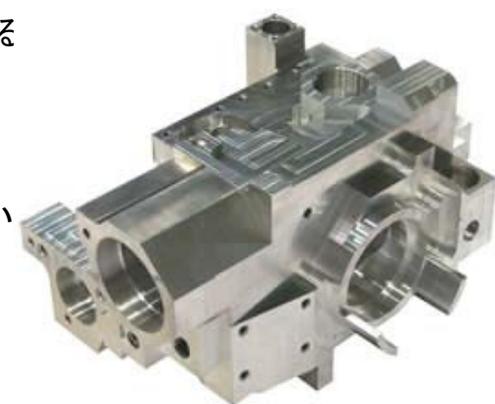
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス  
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械  
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

### 加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



## 2019年6月期・第2四半期累計期間 決算概要

**売上** 世界的に今後の景気に対する不安要素はあったものの、製造業の受注は堅調に推移して前年に比較して緩やかながら増収となった。

**原価** 切削工具部門で減価償却負担が増加したものの、全社としては前年に比べて大きな変化はなかった。

**利益** 法人税等調整額が減少し前年に比べて微減となった。

### 人件費

(千円)

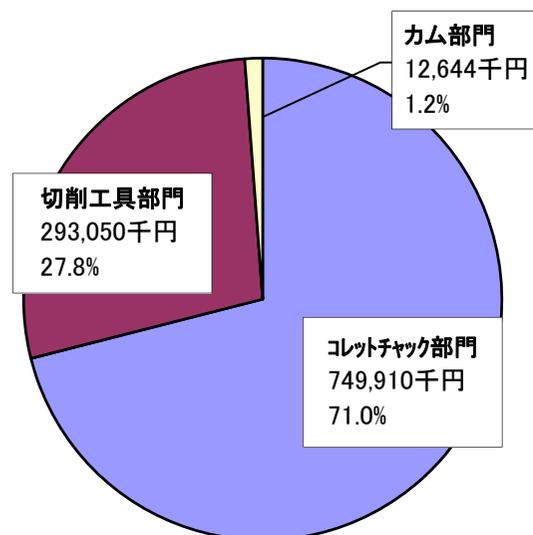
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
労務費	382,836	404,415
コストに占める比率	54.6%	55.6%

### 設備投資額と減価償却費

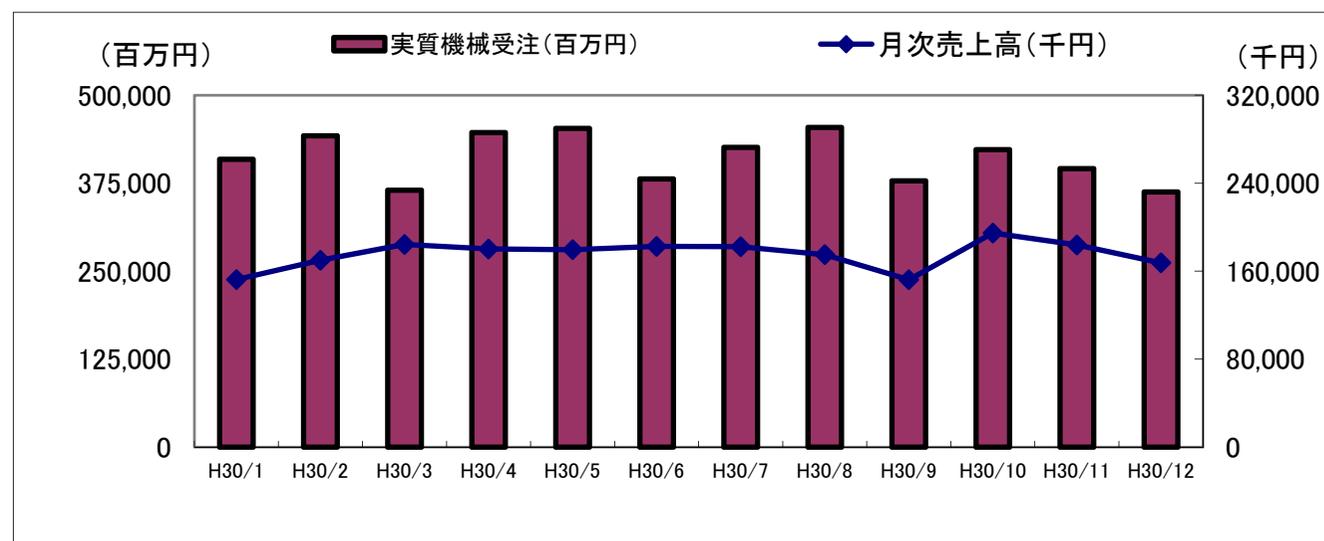
(千円)

	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
設備投資額	28,977	27,443
減価償却費	83,285	85,087

### 部門別売上構成比



### 実質機械受注と月次売上高



## 2019年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期(累計)			当第2四半期(累計)			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	690,512	69.7%	106.7%	749,910	71.0%	108.6%	小型精密部品加工は国内外ともに堅調に推移し、当セグメントの受注も増加。
切削工具	287,716	29.1%	107.2%	293,050	27.8%	101.9%	市販刃物再研は微減となり、オーダー刃物製作は増加となった。
自動旋盤用カム	12,177	1.2%	79.4%	12,644	1.2%	103.8%	量産部品加工が堅調で微増となった。
合計	990,406	100.0%	106.4%	1,055,605	100.0%	106.6%	
売上原価	555,718	56.1%	105.2%	574,816	54.5%	103.4%	全社としては経常的な推移となった。
売上総利益	434,687	43.9%	108.0%	480,788	45.5%	110.6%	
販売費及び一般管理費	145,469	14.7%	100.6%	152,461	14.4%	104.8%	通常の範囲内で大きな変化はなし。
営業利益	289,218	29.2%	112.2%	328,327	31.1%	113.5%	増収分に比例して利益率は上昇。
経常利益	297,799	30.1%	111.5%	334,270	31.7%	112.2%	
当期純利益	232,880	23.5%	128.9%	230,423	21.8%	98.9%	税効果の関係で法人税等調整額が減少し、微減益になった。

## 2019年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	6,059,312	69.5%	6,490,062	74.0%	長期預金301,727千円を短期に振替により増加。
売上債権	465,831	5.3%	459,467	5.2%	
棚卸資産	192,028	2.2%	198,540	2.3%	
その他流動資産	22,988	0.3%	79	0.0%	
固定資産	1,972,025	22.7%	1,626,547	18.5%	機械装置及び運搬具 42,855千円減少。
<b>資 産 合 計</b>	<b>8,712,186</b>	<b>100.0%</b>	<b>8,774,698</b>	<b>100.0%</b>	
<b>負 債 ・ 資 本</b>					
買入債務	18,559	0.2%	17,556	0.2%	
その他流動負債	278,029	3.2%	277,330	3.1%	
固定負債	453,712	5.2%	470,913	5.4%	退職給付引当金等の増加。
<b>負 債 合 計</b>	<b>750,300</b>	<b>8.6%</b>	<b>765,800</b>	<b>8.7%</b>	
<b>純資産合計</b>	<b>7,961,886</b>	<b>91.4%</b>	<b>8,008,897</b>	<b>91.3%</b>	
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,712,186</b>	<b>100.0%</b>	<b>8,774,698</b>	<b>100.0%</b>	

## 2019年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	対前年同期比 増減額	主 な 増 減 要 因 ( 対 前 期 比 )
営業活動によるキャッシュ・フロー	362,956	324,348	▲ 38,607	主な増加要因：税引前当期純利益 334,270千円 減価償却費 85,087千円 主な減少要因：法人税等の支払額 115,958千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 30,931	▲ 427,540	▲ 396,609	主な減少要因：定期預金の預入による支出 400,096千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 144,055	▲ 167,883	▲ 23,828	主な減少要因：配当金の支払い額 167,880千円
現金及び現金同等物の増減額	187,970	▲ 271,074	▲ 459,045	
現金及び現金同等物の期末残高	789,444	653,232	▲ 136,211	

## 今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム部門

### 事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

### 競合状況

- ◇3千5百万円弱の市場規模で既存の中小企業が継続している

### 当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

# 今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門



## 小型CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 25～30億円

メーカー 4社程度

## その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

### <今後の方向性>

- ◇小型精密部品の分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)
- ◇世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向

### <国内の状況>

- ◇CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
- ◇国内で推定 12 ～ 13万台の機械が稼働している

### <当社の対応>

- ◇加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
- ◇増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充

# 今後の事業展開 ～ 切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		× △	内製、グループ会社 切削工具メーカー
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	○ ◎	再研磨会社 150社程 全国規模 4～5社 地域型、個人経営 工具商社系
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型  小中ロット加工	市販切削工具	再研磨外注	○	特注切削工具 大手メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社
		市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	◎ ◎	

<市販切削工具の例> 再研磨

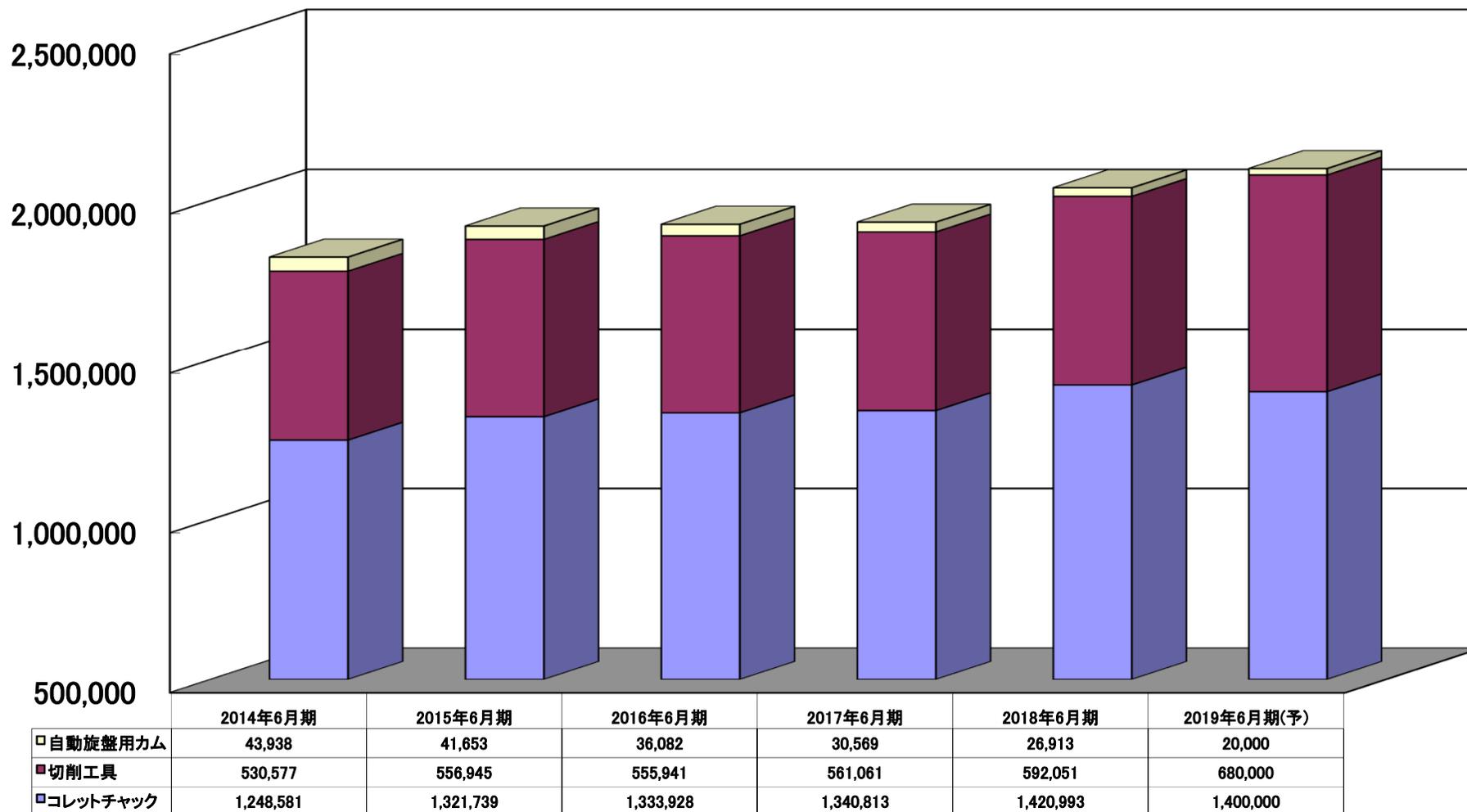


<特注切削工具の例> 製作および再研磨



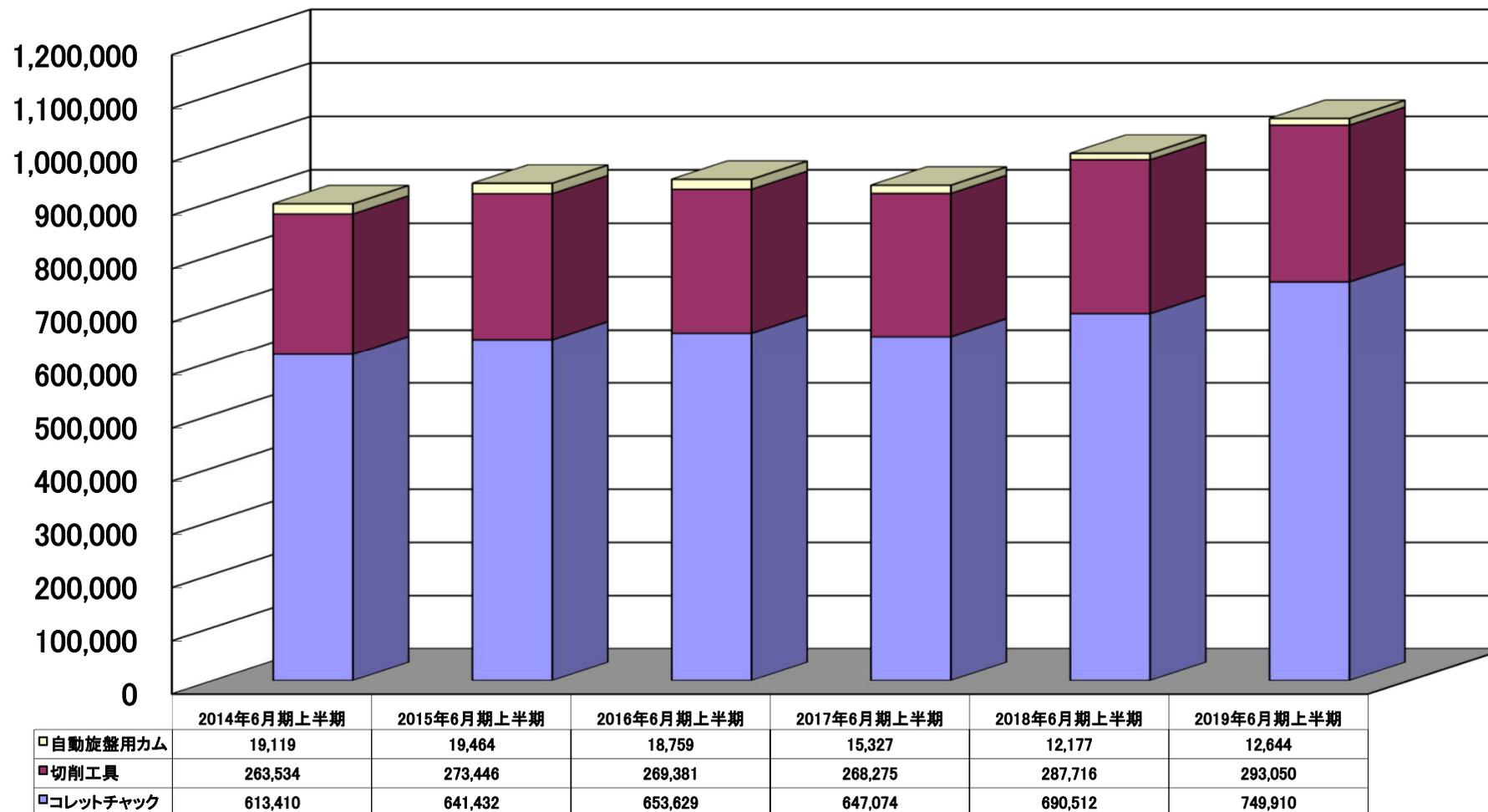
# 部門別売上状況

(単位：千円)



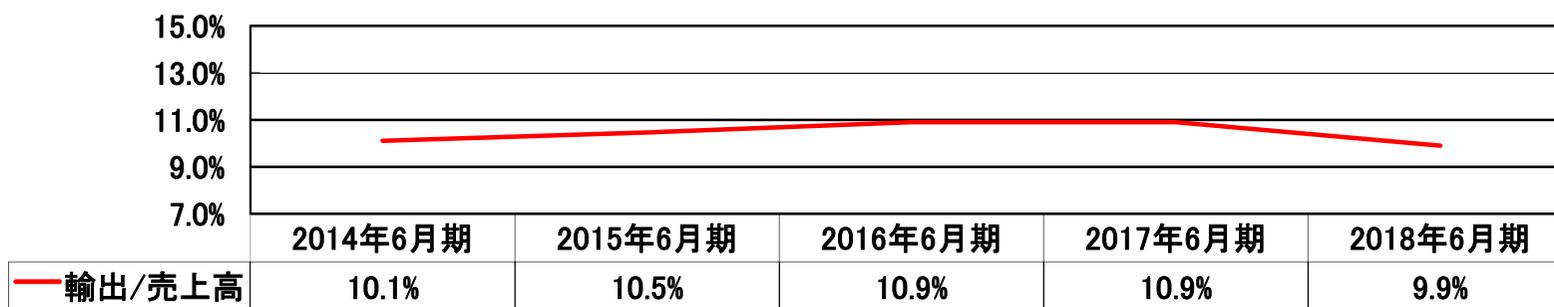
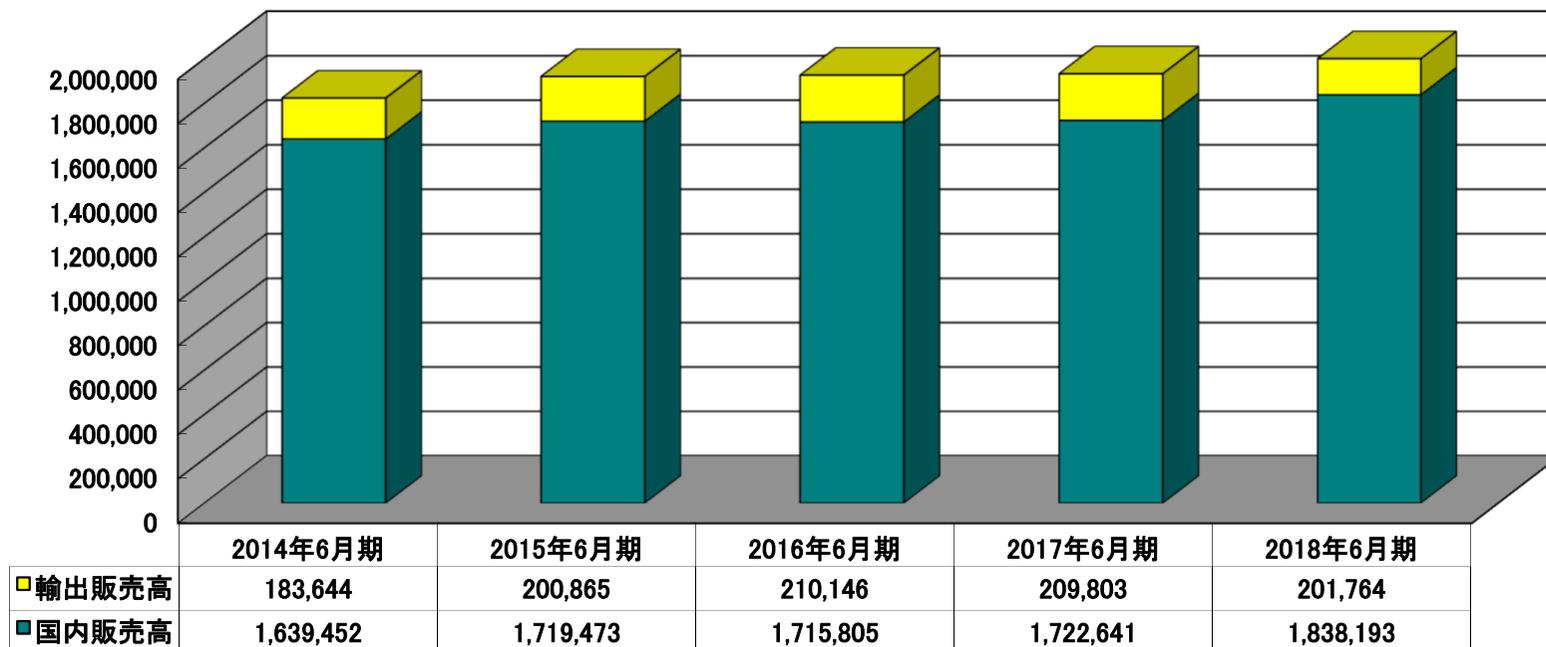
# 上半期部門別売上状況

(単位：千円)



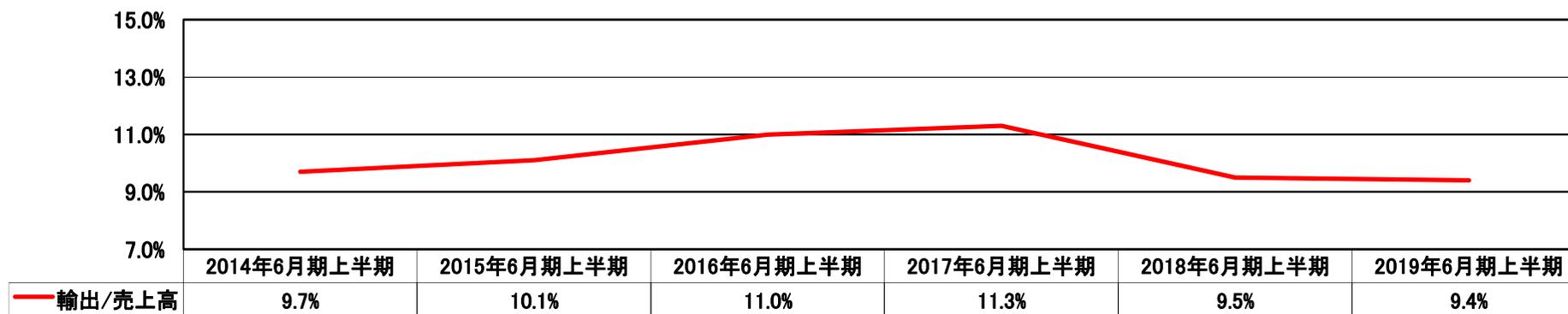
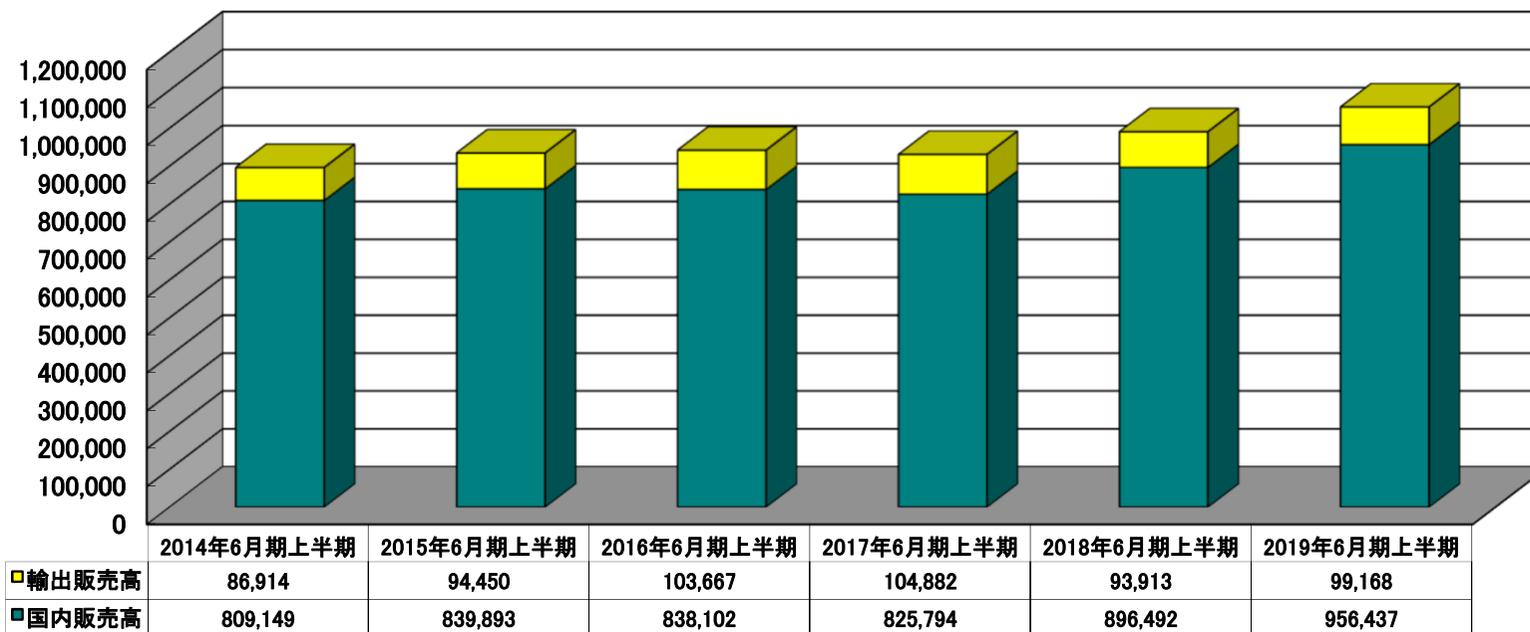
# 輸出売上状況

(単位：千円)



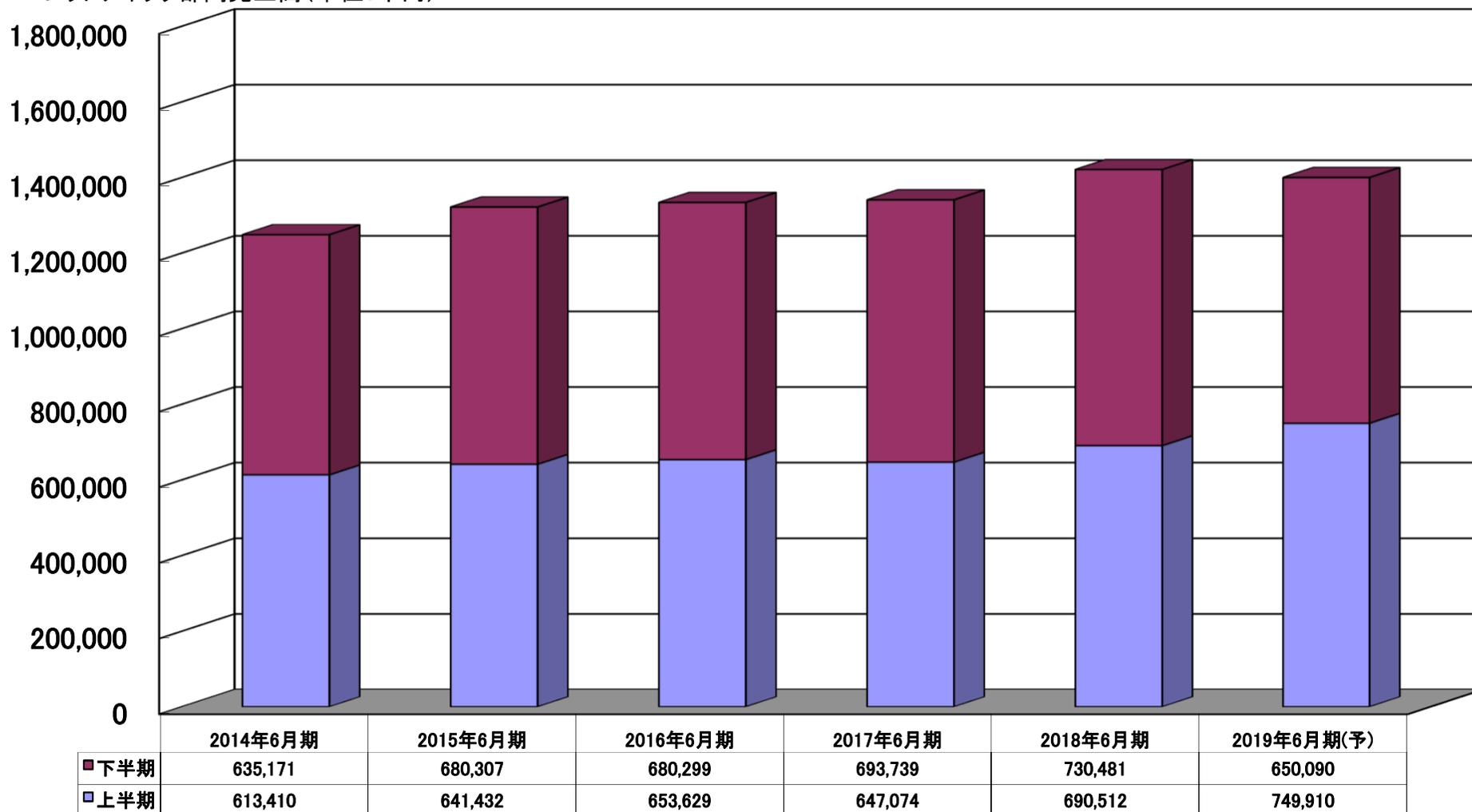
# 上半期輸出売上状況

(単位：千円)



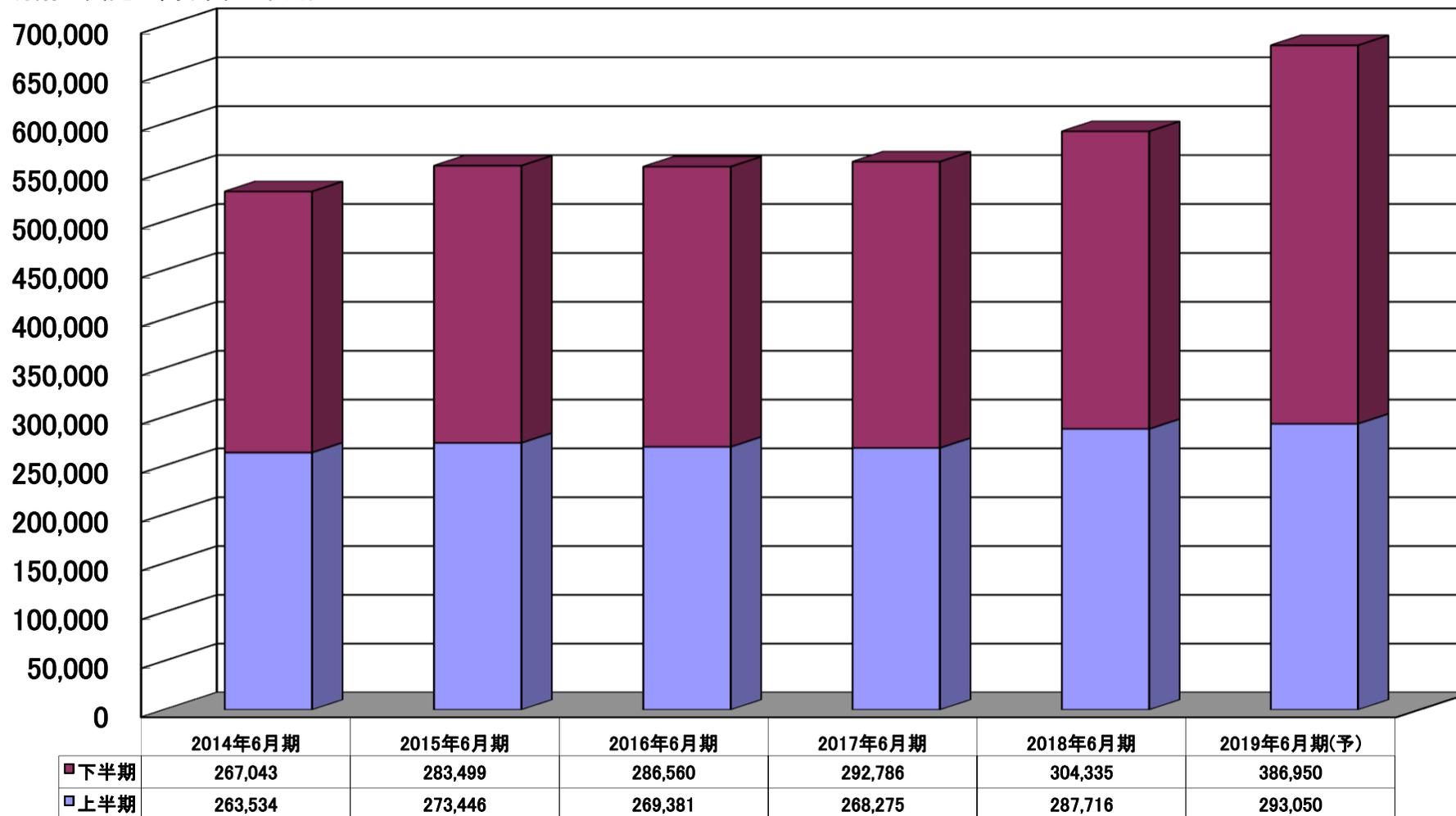
## 部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位:千円)



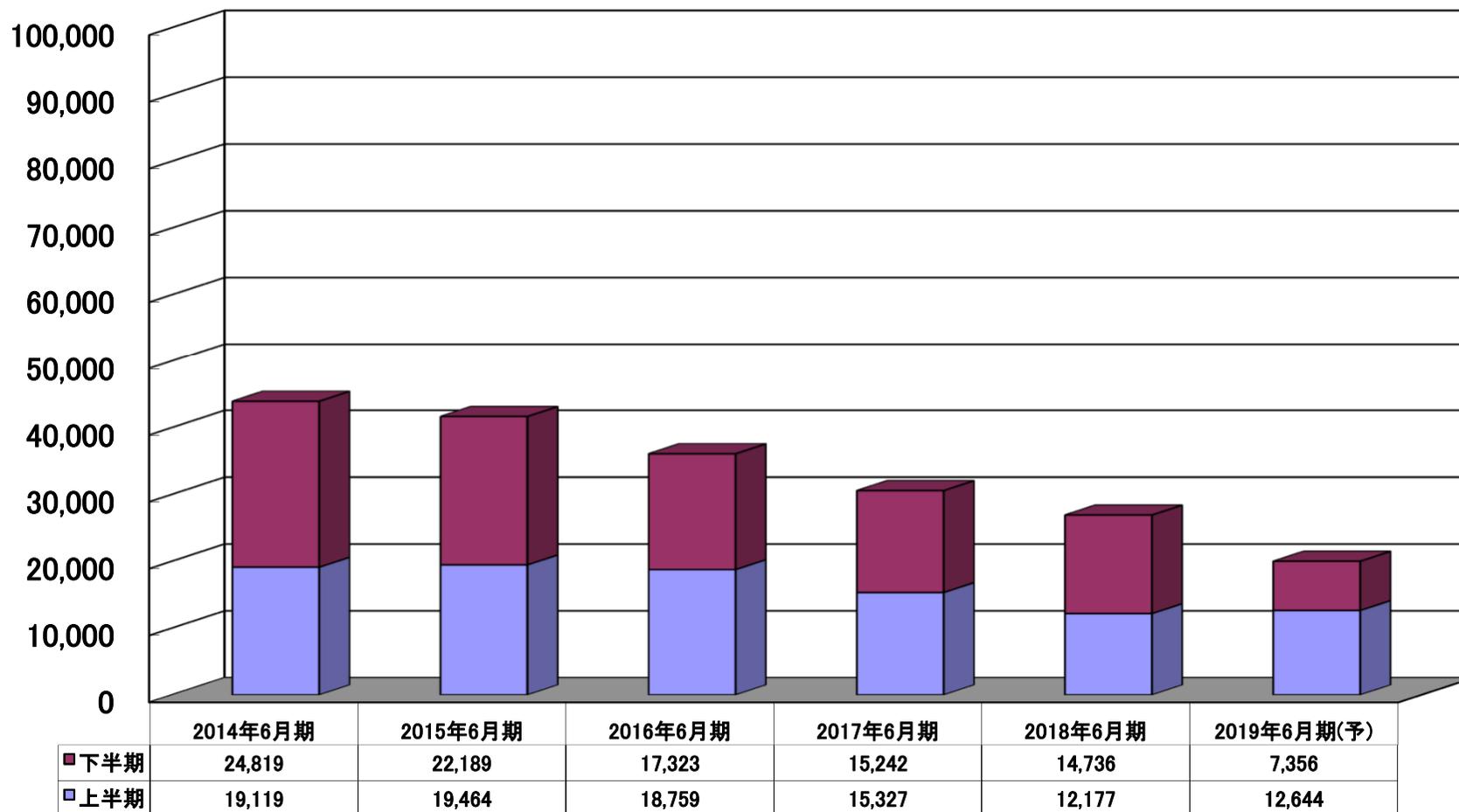
## 部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



## 部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



## 設備投資と減価償却実施額

設備投資額 (単位:千円)	2015年6月期	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期
上半期	71,547	75,203	76,444	28,977	27,443
通 期	107,982	98,321	222,346	197,196	200,000(予)

減価償却費 (単位:千円)	2015年6月期	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期
上半期	104,274	94,827	87,109	83,285	85,087
通 期	212,072	195,071	181,786	175,564	187,041(予)

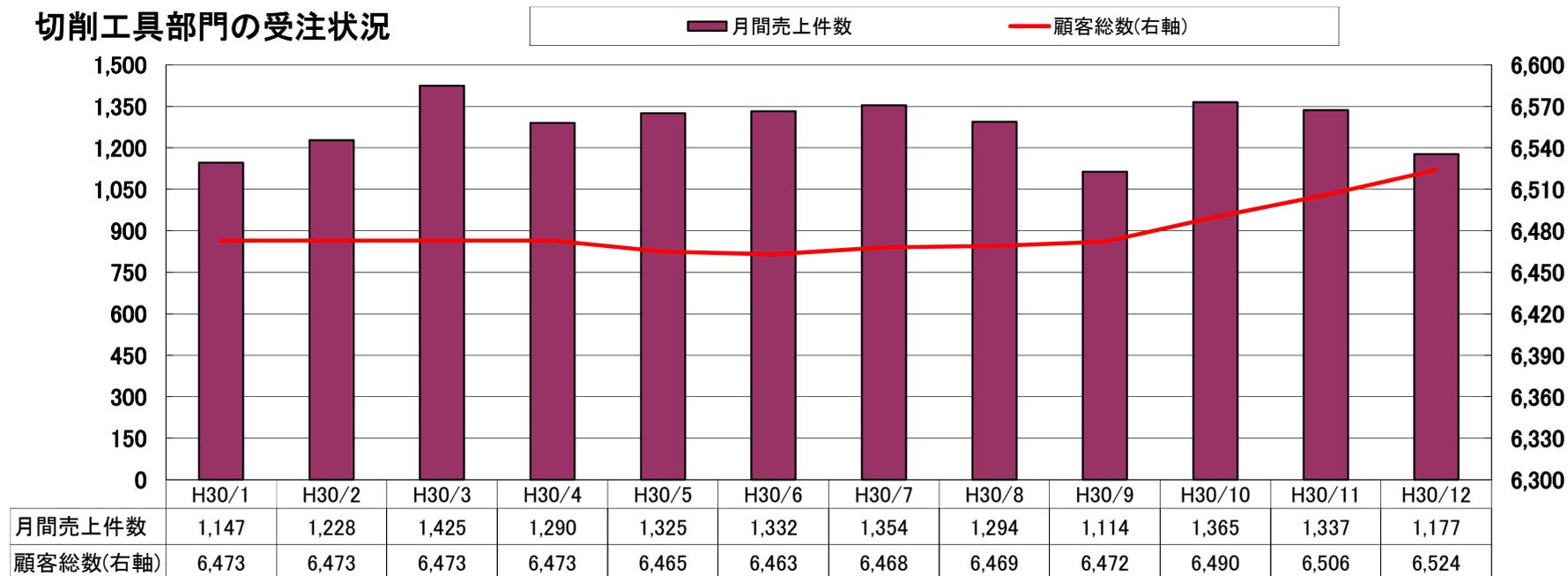
# 切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

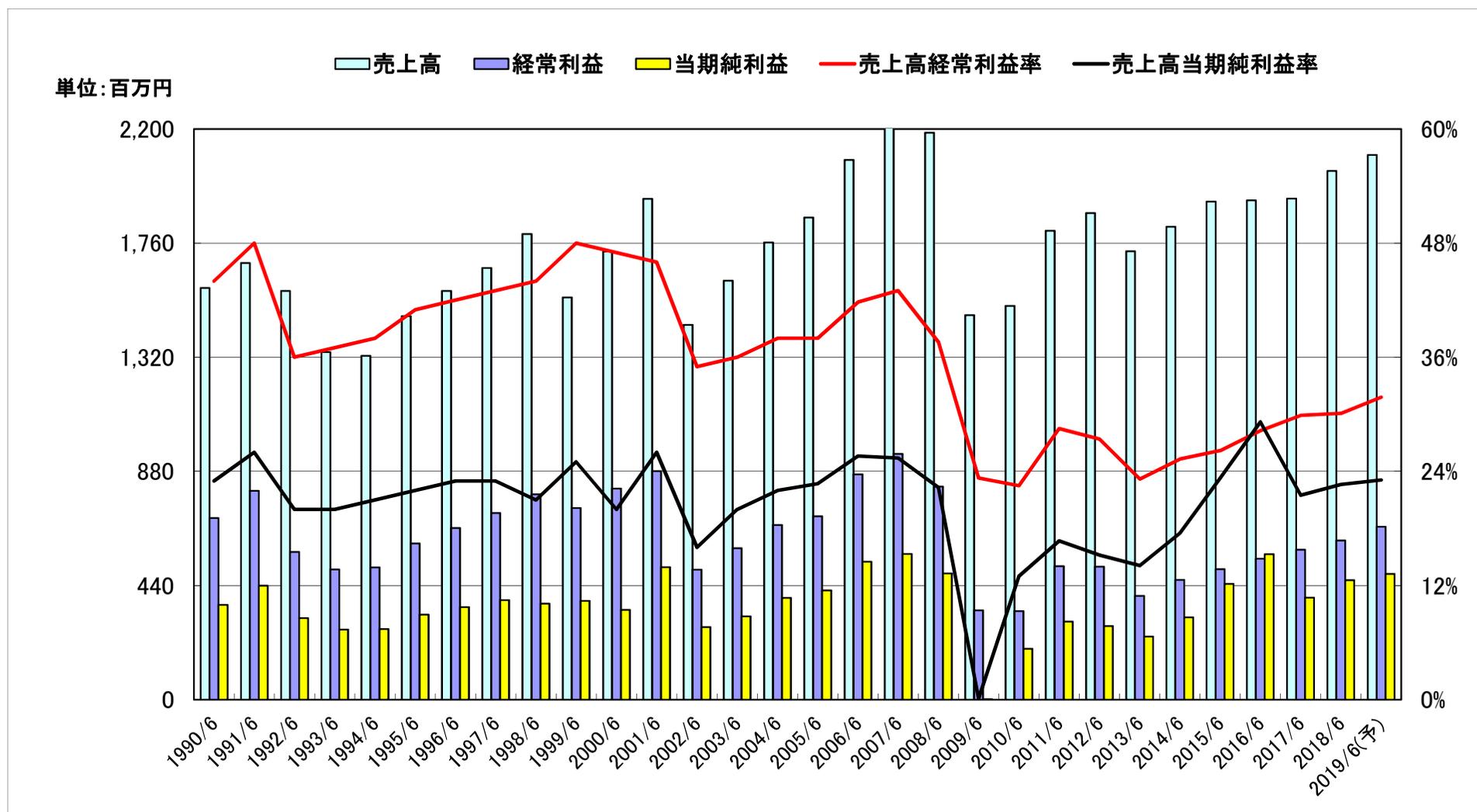
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



# 業績の推移



# 実質機械受注と月次売上高

